



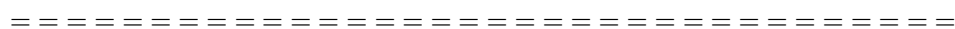
地域日本語支援ニュース こだま 第 354 号

2019.2.14



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■日本で育つ■

外国にルーツをもつ様々な子どもたちが日本で生きています。地元の学校と母国韓国が運営する学校の二つで学び、昨年度中学三年生で日本語能力試験N 1に昨年度満点合格を果たした現在高校生のカンジョンミンさんとユンヘジンさん（お母様）に、言葉に対する学び、子育ての哲学等を聞くことができました。

.....

【インタビュー】 日本語能力試験N 1 満点合格

インタビュアー：公益社団法人 国際日本語普及協会 関口明子

関口（以下「関」と表記）：N 1 満点合格と聞いてどう思いましたか。

カンジョンミン（以下「子」と表記）：本当に印刷の間違いではないかと思いました。

関）：N 1 受験の動機は？

子）：大学入試に必要な項目の中にあったからです。高校に入ってからでは忙しくなるので受けてみようと思い受けました。母が仕事をしていた港北ラウンジ（注）に試験対策クラスがあったので相談して、そこで勉強しました。

（注）港北ラウンジ：神奈川県横浜市にある日本語ボランティア教室

関）：お子さんが幼いときに大切になさったことは？

ユンヘジン（以下「母」と表記）：私が、公園デビューが苦手で、家で本を読ま

せました。子どもに感情を伝えるときに母国語で理解しあうことが大切なので、子どもには母国語をしっかり伝えたいと思いました。ハングル文字はひらがなより難しいので、母国から教材を取り寄せて教えました。2歳から遊びながら教えました。単語を覚えるのは本がよいと思い、本が好きになってほしいので日本語、韓国語、英語の本も読ませました。幼稚園に入るまでは家庭で過ごして韓国語で話しました。そして徹底的に韓国語で話したかったので2年保育にしました。

▼小学校

関)：近所の人が行っている幼稚園から、そのまま近くの小学校に入学したんですね。小学校に行ったときにはひらがながわかりましたか。

母)：外国人は1人。日本語は話せて書けたので、特に苦労したことはなかったと思います。友達が自宅に来て遊んでいました。家庭内では意識して韓国語で話し続けました。

関)：宿題はどうしましたか。

子)：友達としました。通信教育（日本人向け）もしました。

関)：日本の学校でどんなことが違うと感じましたか。

子)：歴史の時間です。価値観の違いに気づきました。6年生の歴史の時間に日本の視点で進められているときに肩身の狭い気持ちになりました。

関)：見方が日本側からですね。小学生なりに違和感など感じましたか。

子)：はい、（日本は）団体意識が強いと感じました。

関)：歴史は見方によって全然違ってしまいますから。よい経験をしたのかも知れませんが。その時に先生や友達から韓国だから何か聞かれたりしたことはありますか。

子)：そういうことばを出さなくても、空気は感じることはありました。

関)：面と向かってそういうことは特にはなかったのですね。

子)：はい。みんな（私が韓国人だと）知っているから。はっきりと違和感を感じたのは中学に入ってからでした。

母)：小学校で、先生から電話で、こういうことがあったが大丈夫ですか？と聞かれたときがありました。

関)：中学は韓国学校に行ったのですね。

子)：はい。

関)：ずっと日本語で勉強していて中学で突然ハングルの授業で困らなかったんですか。

子)：特に困った覚えはありません。

母)：日本の小学校では授業が厳しくないので、自宅では韓国から教科書を取り寄せて勉強をしていました。4年生のときに、塾に行き始め、5年生で中学受験の人と勉強し始めました。進学は、韓国か、日本か自分で選択するように言いました。

▼中学校

関)：中学がスタートして何か困りましたか？

子)：特に困った覚えはありません。

母)：韓国学校での勉強、特に、科目として社会をやっていないから困っていました。

関)：すごく困ったというわけではないのですね。

子)：最初は理科など点が低くて困りました。

関)：日本語での教科の学習はやりましたか。

子)：やりませんでした。

関)：6年生までの漢字は勉強したのですね。

子)：家で日本語の本を読んでいたのので、漢字は大体読めました。英語、韓国語、日本語で本を読んでいた。

関)：本を読むことはよいことで、それが実証されたわけですね。

子)：そうですね。でも話すことでは、私にとって韓国語は親や親戚と話すことばなので、若者ことばを理解できなかったです。

関)：同世代のことばがわからないことで、韓国の友達とうまくいかなかったことはないですか。

子)：ないです。雰囲気というか同じアジアという感じで。日本は建前というかはっきり言わないですが、韓国は結構はっきり言ってしまいます。でも私

にとってはよかった。この表現違うとか、おかしいとか言ってくれたので。

関)：ほかに何かありますか。

子)：歴史（の授業）の違いとかを感じました。量が違います。日本の学校では韓国の歴史は少しで、1 ページ分でした。そのときは早く終わってほしいなと思っていましたが。韓国学校ではひとつの単元として量がすごく多いです。日本史、世界史は選択科目です。学校の生徒は日本語もわかっている人が多いです。

関)：今、本を読むときに1 番楽なのはどの言語ですか。

子)：日本語です。韓国語は教科書で学んだので、ニュアンスとか言い回しは日本語のほうが楽です。

関)：将来について考えていますか

子)：まだ具体的にはわかりません。語学を生かして韓国と日本の架け橋になりたいです。

関)：有難うございました。

.....

☆インタビューを終えて

ジョンミンさんに会うまでは、日本生まれや幼いときに来日した、私が関わっている子どもたちと同じように、学校の勉強についていくのが大変で、どのような苦勞をなさったのかをお聞きしたいと思いました。しかし、現実のお話は驚きの連続でした。まさに子育てにいかに周囲の大人、特に家庭内の親の考え方、それに基づく行動が子どもの心身及び頭脳の発達に大きく影響するかということを実証してくださいました。明るく、落ち着いた物腰、気負わず、自然に話してくださったジョンミンさんは日本語、韓国語、英語を自然に受け入れ、体力になっている少女でした。親の確固とした信念に基づき、本人の努力もあいまって、一人のやさしく才気あふれる少女に成長したのです。そこにはもう一つ経済力が加わることも事実ですが、爽やかなお母様ユンヘジンさんの内に秘めた強さ、必ず立派な子どもに育てるのだという揺るぎない信念、まわりの支援に対する心からの感謝がまさにこの天才少女を生み出したのです。日本語能力試験N 1 満点は当然の結果だったのです。港北ラウンジへの感謝、お嬢さんの日本語支援担当者への感謝の思いなど、人としてユンヘジンさんから学ぶことも多かったです。

ジョンミンさんは複数の文化の中で育ったサードカルチャーキッズ（※）としてこれからのグローバル社会を担っていく人材だと思います。

編集部注（※）サードカルチャーキッズ（Third Culture Kids = TCK）
人格形成に影響を及ぼす時期や思春期を母国以外の文化圏で何年も過ごしたことのある子どもたちのこと。
